

Toyo Channel

「伝えたい」が、世界への扉を開く

——アデレードで描いた14日間の成長軌跡



2026年7月19日から8月2日までの14日間、グローバルコース2年生28名がオーストラリア・アデレードでの語学研修を実施しました。生徒たちはボタニック校とレイネラ校の2拠点に分かれ、ホストファミリーとの生活や現地パディとの授業、地元の小中学生へ向けた日本文化プレゼンなどに果敢に挑みました。

研修序盤は「思うように英語が出てこない」という悔しさや戸惑いを抱えていた生徒たちも、現地での交流を通じて「もっと自分の言葉で伝えたい」という強い意欲へと変化。最終日には「絶対また戻ってきたい！」と語るほど確かな自信を深め、全員が無事帰国しました。世界への扉が開いた28名の成長の軌跡をご報告いたします。



学び・語学・文化発信プレゼン



▲小学生との交流

パディ授業体験では、数学・パイロロジー・理科実験（ソウの歯磨き粉）や、ロボティクス・謎解きなど豪州特有の選択授業に挑戦しました。また、文化プレゼンでは、地元の小学生・中学生を相手に「日本のマナーやルール・文化」を英語で発表し、現地生徒の興味関心を引き出しました。



異文化体験&ワークショップ



▲思い思いにせっけん作り



▲糸紡ぎ工芸体験

先住民族アボリジニの糸紡ぎ工芸や伝統ダンス体験を通じて歴史と文化に感動を覚えました。ワークショップでは、せっけん作り・ラッピング、指輪の成形&研磨（職人級の才能を発揮！）、ビジュアルアートでの葉っぱスケッチなどさまざまな文化を体験しました。食べ物では、パイやアンザックビスケット作りも。生徒たちは名物「ベジマイト」にも挑戦し、異文化の味覚に歓声が上がりました。



▲アデレードの味を体験中。おそろおそろベジマイトに挑戦するも、撃沈する人多数！



ホストファミリーとの絆&歓送会

各自ホームステイ先では、ビーチ散歩・映画・買い出しなど家族の一員として温かい時間を過ごしました。最終日にはフェアウェルパーティーが開かれ、感謝のスピーチを披露。生徒たちからは「絶対またアデレードに戻ってくる！」という声が相次ぎました。



タウンフィールドワーク&町散策

ランドルモールではスカベンジャーハント（宝探し）ミッションに挑戦しました！セントラルマーケットでの食材探索、南オーストラリア博物館、ナショナルアートギャラリー、大聖堂などを見学し、日本との違いを感じました。また、ドイツの面影を残すハーンドルフの歴史的な街並みをパディと共に散策し、異国情緒を満喫しました。



▲アデレードの街並みを散策



オーストラリアの自然・野生生物

コアラ、カンガルー、ワラビー、ウォンバット、ミューなどオーストラリア固有種を間近で観察してエサやりを体験しました。生徒たちは「カンガルーが思いのほか筋肉質だった」「コアラの仏頂面とカンガルーの気だるさが愛くるしい」など現地ならではの発見をしていました。また、1800年代から続く、歴史あるアデレード動物園で生物多様性や動物保護の学習を行いました。



▲もりもりとユーカリを食べるコアラ



▲固有種を守るためにさまざまな取り組みをしていることを学びました！

先生の声

最初は「言葉が通じない」という焦りや不安が見られましたが、現地での生活やパディとの交流を通じて日ごとに「伝えたい」という意欲へと変化していきました。空港での買い物も自主的に英語で行うなど、14日間で大きな度胸と語学への自信を身につけた素晴らしい研修となりました。（引率：三浦教諭）